
Artemis ～月光の煌き～

高田 玄武

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Artemis ～月光の煌き～

【Nコード】

N8395C

【作者名】

高田 玄武

【あらすじ】

戦乱の時代。盗人の少年は、月に映える少女の姿に魅入られる。少女は、一体何者なのか。・・・貴方は何者だと思いますか？

恒久の月の光の如く。

絹の羽衣を纏った少女は野に立ち、白痴の様に銀色の櫛をなびかせ、唯、地を踏みしめ、きらびやかに舞っていた。

「お主は何故、舞うのか。」

彼女の姿を、丁度井の水を汲みに忍び込んだ盗人の少年が眼にして声を掛けた。

少年の声に驚き、彼女ははたと足を留め、彼を振り返る。

「お主は何故、其に於いて舞うのか。」

振り向いた銀髪の少女に、再度問掛ける。彼の眼には、少女の姿がそれほど楽しげに見えたのだ。

今宵は満月。月の光に照らされた少女は、ボロを纏った少年を魅了するに十分過ぎる程の妖艶。

「クス。」

と少女は微笑む。

微笑んだ少女は、すぐに彼に答えた。

「そなたは、生きて地を踏むことを嬉しきこととは思わぬかえ？」

少女の意外な答えに少年は、手の、拘ちかけた木桶を突き出して答える。

「・・・この乱世に、生きることを苦難と思わぬ者がおるものか。見る、この一酌の井の水すら、ままならぬ。何を嬉しきと思えようぞ。」

木桶の水は、満月を映してゆらりと揺れている。

「生きるが苦難か。其の様な物、水辺を行けば足る程あるうに。」

少女は尚も楽しげに微笑う。

「河原には死人が浮いて飲むに耐えぬ。腐臭は気を病ませよう。口にするには値わない。」

「^{なれ}汝もヒトぞ。口に出来ぬもあるうか。生きることより其が^い病むとは、如何なものよ。」

「仕方あるまい。生きるとは其のようなものだ。・・・お主は何ぞ。見る限り、地の者とは合い見えぬが。」

少女は口の端を緩めると、纏った羽衣をひらりと翻し、一度くるりと舞う。

「我もヒトぞ。そなたと同じじゃ。地を踏むことも出来るし、かようにほれ、舞うことも出来る。其れの何と幸せなことか。」

少女は尚も跳び撥ね、銀を翻し煌めく。

「・・・案じた。この両の眼には、妖あやかしか物の怪の類に映えて仕方ない。お主、生まれは？」

少年は、汲んだ水を手に、更に問う。少女は地につけた足を軽やかに踏むと、一言放つ。

「そなたの知らぬ場所じゃ。」

と、答えた彼女は、宙を仰ぐように月を見つめた。

「俺の知らぬ場所？異国か？名は？」

「名、か。そうじゃな、我の名は月・・・うむ、月詠つぐよみじゃ。良い名であろう。」

「では、月詠。お主はこんな焼け野原で何をしていた。」

「待て。我が名乗ったのならば、そなたも名乗るのが道理である。そなたの名は？」

「・・・俺の名は。」

とまで答えて、少年はふと気付く。少女の舞いは見るに奪われるほど美しかったが、辺りには人の気配一つ無い。月の光のみが、元は集落であつたであろう、その焼け出された野原を映し出している。

「どうした？そなたの名は？」

少年はふと脳裏に過つた言葉を振りほどき、答えた。

「俺は、助六だ。」

少年の名を聞いた少女は、舐めるように少年を見つめると、口にした。

「助六か。うむ、良い名じゃ。して助六、そなた、我に何をしていたかを問うたな？」

少女は柔らかに微笑むと、少年に背を向け、また月を見上げた。

「月を 見ておったやも知れぬな。」

「やも知れぬ？知れぬとは、如何なことぞ？」

少年は、少女の不思議な答えに、身を乗り出して更に問う。すると少女は振り向き、答えた。

「クス。そなた、生きることを苦難と申したである。では、何故に生きるか。」

少年は、少女の笑みにぞくりと肝を冷やし、一歩退く。

「畏れなくとも。そなたを捕って喰おうとも思わぬ。我は、そなたが生きる理由を識りたい。生きるとは、如何ようなことが。」

少年は唾を飲み、眼の前の少女に魅入られたかの如く、動けずに居た。

「お主、真まことにヒトか？」

少年は震える躰をやつとのこと抑え、発したが、少女はクスリと微笑い、少年を見据えたまま微動だにしない。

「月を そなたの眼は、この満円の月を、どのように映すであらうな。」

微かに表情を曇らせた少女の姿に、少年は畏怖とも違つ、なんとも言えぬ感情に心を奪われる。

「・・・さりとて、我は 。」

瞬間、つむじ風が吹き抜ける。

少年は強い風に顔を背け、一瞬視界を取られる。

「 月詠っ!？」

風が止み、次に少年が少女を探した時には、其処に彼女の姿を見つけることは出来なかった。

満円の月の光が如く。

煌めく恒久の月の光の下、少女の面影を探し、少年は立ち尽くす。

（後書き）

少女は何を見、何を考えていたのでしょうか。

作者自身の中でも、少女が何者でどこに消えたのか、はっきりとした答えが見えないまま完結してしまいました。

もし、皆様の頭の中で、少女の姿が見えたのであれば、皆様はどのように思われるか、考えて下さるととても嬉しく思います。

玄武でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8395c/>

Artemis ~ 月光の煌き ~

2010年10月11日14時31分発行